

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 教室でのタイドを改める。
- 2 公共の資金をトウニユウする。
- 3 品種をカイリヨウを試す。
- 4 メイロウ快活な性格の人物。
- 5 雨がやんで日が照る。
- 6 特殊な技を会得する。
- 7 作品を展覧会に出品する。
- 8 世界一標高が高い山。

問二 次の熟語の意味を打ち消すときに頭に付ける語を、あとのア、イ、エから一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 意識
- 2 合法
- 3 常識
- 4 完成
- 5 成立

ア 無 イ 不 ウ 未 エ 非

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自分とは小さいころからしょっちゅう出会っているようにも思えるし、いまだにほんとうの自分とは出会ってないような気もする。

自分の顔とは毎朝ひげをそる時に、^{いやおう}否応なしに向かい合う。目の下がたるんでいるし、しわも増えつづけている。だんだん父親に似てくるのがうっとうしい。知らず知らずのうちに若いころの顔と比べている。昔の顔と今の顔のどっちがいいかなどと考えることもあるが結論はない。やれやれこれがおれかと思うだけである。^A そんなのは自分と出会ううちに入らないのは分かりきったことである。

顔は長年の間にたしかに変化している。顔が変われば中身も変わったと思っ**て**いいのだろうか。自分では鏡を見なくとも、中身も変わったと思っ**て**いる、いや、そう思ったがつっている。変わったのは自分と出会うからだろうか。私は（ a ）他人と出会うからではないかと思う。他人と出会う**た**おかげで、自分とも出会えたのだろうが、そのカテイは**①** おいそれと解説出来るようなものではない。他人と出会うのは **X** みたいなものだから、命がけである。

勝新太郎さんがどこかでこんなことを言っていた。おれ**②** っていう人間とつきあうのは、おれだって大変だよ。（ b ）おれが**③** つきあいやすい人間になつちやったら、まず、おれが**④** つまらない。私は**⑤** すっかりカンシンした。自分とつきあうのが**⑥** 大変だなんて考えたことがなかったからだ。 **B** 私は勝さんよりのんきな人間で、自分とも他人とも世間ともあまり**⑦** 衝突せず**⑧** に生きてこられたと思っ**⑨** ていたけれど、実はそれは自分で自分をごまかして**⑩** いたにすぎないのではないか。

ほんとは誰**⑪** でも自分とつきあうのは大変なんじゃないか。ただ**⑫** 大変なのを自分じゃなく、他人のせいにしてるだけじゃないか。 **C** 大変な自分と出会うまでは、ほんとに自分と出会う**⑬** たことにならないんじゃないか。上手に自分と出会うのを**⑭** 避けていくのも、ひとつの生きかたかもしれないけれど。

私はもう六十歳を**⑮** すぎたから、出会う自分も六十歳をすぎている。 **⑯** すぎてはいるのだが、六十歳の私のうちに三歳の自分や、二十歳の自分、四十歳の自分**⑰** がいるのに**⑱** 驚かされる。現在の自分と出会うには、過去の自分と出会う**⑲** ざるをえないのがしんどい。自分の洗**⑳** い直**㉑** し**㉒** ても言うのだろうか、そんなことをやっているような気がするが、洗**㉓** い直しても自分は別にきれいな**㉔** いにはならないし、**㉕** シンピン**㉖** に戻るわけでもない、かえって糸がほつれかけたりする**㉗** のが困る。

D 過去の自分と出会うのはしかたないにしても、年をとると未来の自分とももうじき出会うんだと覚悟を決めるようになる。(c) 老いと死をぬきにしては自分とつきあえない。そろそろ自分とおさらば出来るのがそう悪い気もしないのは、自分に甘い私にも、自分をもてあましていところがないにしてもあらずだったのか。そうだとすると少しは自分に興味がわく。自分でも気づかずにかくしていた本音がいったいどういうものか。それをほじくり出すのも老後の楽しみのひとつかもしれない。これはこわいものみたさか。

自分のところだから分らないはずはないと思うのは誤りだ。自分のところはもしかすると他人のところよりも分りにくい。(d) ところの奥にあるというたましいなんてものは、もつと分りにくい。分らないまま日々私は生きている。我ながら、

Yだ。

(「自分と出会う」 谷川俊太郎)

問一 線①③のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄 (a) (d) にあてはまる接続詞として適切なものを、あとのア～エから選んで記号で答えなさい。

- ア でも イ むしろ ウ まして エ つまり

問三 空欄 X、Y にあてはまる言葉として適切なものを、あとのア～エからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

X	ア	会議
Y	ア	非情
	イ	競争
	イ	乱暴
	ウ	戦争
	ウ	有望
	エ	恋愛
	エ	大胆

問四 線A「そんなのは自分と出会ううちに入らないのは分かりきったこと」とあるが、それはなぜか。簡単に説明しなさい。

問五 — 線**B**について、私が「自分とも他人とも世間ともあまり衝突せずに生きてこられた」のはなぜだと分析しているか、適切なものを、あとの**ア**～**エ**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 生まれつきとても楽天的な性格だったから。
- イ** 本当の自分と出会うのを、避けてきたから。
- ウ** 周りにいたのが、良い人ばかりだったから。
- エ** 自分は世間を離れて孤独に生きてきたから。

問六 — 線**C**「ひとつの生きかたかもしれないけれど」とあるがその後はどう続くと考えられるか、適切なものをあとの**ア**～**エ**から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア** 避けることは不可能だ。
- イ** 本当の自分とは出会えない。
- ウ** 私は実行しないだろう。
- エ** 私には実際、難しい。

問七 — 線**D**「過去の自分と出会う」とあるが、過去の自分と出会うことができるのはなぜか、解答欄に合うようにぬき出して答えなさい。

問八 — 線**E**「未来の自分」とあるが、同じ意味の語句を本文中より四字でぬき出しなさい。

問九 — 線**F**「こわいものみたさ」とあるが、ここという「こわいもの」とは具体的になにか。本文中のことはを使って、二十字以内で答えなさい。

三

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

朝霞あさかゆう子こという、目の大きい娘むすめがいた。ぶらんこはてっぺんまで漕こいでしまし、遊動丸木からは上級生をふり落おしてしまふという威勢いせいのよさだが、ああらごめんさい、といつも素直すじである。誰だれにむいても、かくしている下心①が一つもない、という印象あを与える。屈託くつたくがないというのか、こだわらないというのか、底抜けそこぬけに明るかった。この子こがるつ子こへ結むんできた。生活はゆう子のほうがずっと上、性格の明るさもゆう子のほうが上、ぶらんこ乗りもちよつとあちらが上、だが勉強べんきやうはとんとん、気性はるつ子が勝つ。二人が組んで飛びまわりはじめると、あちこちから参加したがって寄つてくるものが多かつたが、誰もこぼさない代り、誰だれをも常連②に入れようとしなかつた。二人は、三人四人に殖ふえることなく、二人きりで具合のいい友達ともだちだった。意地わるを、面とむかつていうものがいた。

「あなた、朝霞さんとずつときあえると思つてるの。あちら子爵ししやうさまよ。昔むかしならおひい様さまですつてさ。」

「うわあ、大変だ。そんな人とは知らなかつた」とびっくりしたものの、おかしさがこみあげてたまらない。芝居しばいでも絵でもないここに突然とつぜん、殿様奥方とのさまおくがた様さま、おひい様さまが出てきたのだと思えば、下着したぎはどうなつてゐるか、とこみあげてくるのである。ゆう子は洋服ばかり着きているから、よけい察さしはつかないが、顔は絹ぬいとは思えなかつた。

「るつちゃん、今度の日曜に、自転車じてんしゃで遊あそばない。」

「あたし、自転車なんて乗のれないもの。」

「あら、できないの。それじゃ教えてあげるからいらつしやいよ。すぐ覚えられるわ。」

それは興味のあることだった。早く走れるのは、どんなに楽しかろう。

「だけど、ゆう子さんは洋服だからいいけれども、あたしは困るわ。」

「平気よ。体操たいそうもつてくれれば大丈夫だいじょうぶよ。きものでも簡単よ。うちの女中にやうちゆうたち、みんな着物ちやくぶつでおぼえちやうわよ。」

B それは体操のあとで、更衣室こういしつにいて、ほかのみんなとごたごた着換きかえをしながら、話わしていた。

その日、ゆう子は掃除当番そうじばんであとへ残り、るつ子は先へ校門がうもんを出た。うしろから呼よばれた。伊東和子いとうかずこだった。この子は、下駄箱げだばこのわきに立たっている

子だった。出来ないのではないようだが、はきはきしないで、じいっとしているたちだった。およそ人に、ものをいいかけるのを見たことがないのだが、いまは確かに用ありげだった。

「すみません、お頼みがあつて——あの、さつき更衣室でいきちやつたんだけど、今度の日曜、朝霞さんのうちであなた、自転車を教えてもらうんですよ。私にも教えてもらえないかしら。頼んでいただけない。」

ふだんは無口だとみえているが、結構よくしゃべって、るつ子は押され気味だった。

「じゃ、引返してきいてみましょう。ゆう子さん当番だから残っているわ。」

「いえ、あしたでいいの。あなただってお母さんに許してもらわないと、行かれないでしょ。あたし一人であの方のところへ行くのはいやよ、あなたと一緒になくては。」

C 案内、頭のめぐりは早いぞ、と思う。ならんで歩きながら見る横顔は、たしかに木綿組である。大きな額、少し短すぎる鼻。けれども口がめりこんだいい形で、笑うと歯の粒がそろって美しかった。二つにふりわけて耳の後ろに束ねた髪は、ちようど束子のようだった。剛毛で、たつぷりと豊かであり、黒い。

「まだ誰も知らないと思うけど、あたし給費生なの。」

「え？ なんなの、それ。」

説明されてはじめて知るのである。自分の下に弟妹があり、父は病歿、母は働いているが、貧しい。小学生の先生の骨折で、やっと給費生の道をひらいてもらったが、足りない分を母にだしてもらうことはできない。少しでも稼がなくてはいられない。それでさし当り、近所の使い走り、手伝いなどをしている考えたのには、いっそお使い屋専門になって、十軒なり十五軒なりをまとめて、毎日自転車で駅まで買物に行けば、無駄な時間がかからず、仕事もはかどいくし、稼いだかもある。自転車はさいわいに親類にボロのがあつて、それをただでもらうことに話がつけてある、という。るつ子は音もたてられずに、きく一方の押されつ放しだったが、和子は X に、たのしげにさえ話す。

D 「あたし、さつき更衣室でこの話きいたとき、しめた、と思つてね。給費生のこと話そうときめたの。学校中へ知れたつかまわらないの。いくらかもよけい稼ぎたいんですもの。」

うちへ帰つてもるつ子は、^③ け押されたのが回復しなかった。たわしのような髪や、おでこの突きでた加減や、あれは四つ身裁ちの着物かもしれない、

ばかに襟幅の狭かったのなどが、目に浮くのである。お使い屋をして稼ぐというのも、幾分図々しいような調子があり、あの押してくるような芯のきつさが、るつ子にはかなり効いていた。とてもかなわないという、しょんぼりした、晴れない気持ちにさせられているのだった。そのくせ、軽蔑した思おもあり、かわいそうなという同情もあり、こぐらかつていた。

(幸田文『きもの』より)

- * おひいさま 育ちの良い家のお嬢様。お姫様。
- * 病歿 病気で亡くなること。病没。
- * はかがいく はかどる
- * こぐらかつて 物事が複雑にからまっていること。こんがらがる。

問一 線①②③の本文中における意味として適切なものをそれぞれあとのア～エから一つ選んで答えなさい。

- | | | | | |
|-----------|------------|------------|---------------|-------------|
| ① 「下心」 | ア 昔の秘密 | イ 心の底のたくらみ | ウ うそをつくこと | エ 見栄を張る気持ち |
| ② 「常連」 | ア 常識的な人 | イ いつも店にいる客 | ウ いつも共に行動する仲間 | エ 定期的に現れる人物 |
| ③ 「け押された」 | ア 勢いに圧倒された | イ 強く押された | ウ 脅迫された | エ 自信を失った |

問二 空欄 X にあてはまる言葉として適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 消極的
- イ 積極的
- ウ 自慢げ
- エ 恥ずかしげ

問三 ①朝霞ゆう子、②伊東和子の説明として最も適切なものをあとのア～エからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

①朝霞ゆう子 ア るつ子よりも勉強ができ、成績が非常に良い。

イ 普段から和服で生活しており、自転車もききもので乗っている。

ウ 子爵の家柄で家も裕福であり、女中を雇っている。

エ 明るい性格で、多くの友人にいつもかこまれている。

②伊東和子

ア ひとりで自転車の練習をしており、せっかくなのでるつ子と一緒に練習することにした。

イ 毎日自転車に乗って、近所の人の手伝いをして学費を稼いでいる。

ウ とてもおしゃべりで、給費生であることを周りにかくさずに接している。

エ ふだんは無口であるが給費生のため、近所のお手伝いをしながら生活している。

問四 ——線A「おかしさがこみあげてたまらない」とあるが、るつ子はなにがそんなにおかしいのか、その説明として適切なものを、あとの

ア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア ゆう子の身分を知らずに付き合っていた自分がばかであったと思い知ったこと。

イ 自分とゆう子の仲の良さを知らずに、意地わるを言ってくる人の様子にあきれたこと。

ウ ゆう子がきものを着た姿を想像すると、まったく似合わないと思ったこと。

エ 芝居にでてくるような殿様奥方様、おひい様といった言葉とゆう子のイメージが合わなかったこと。

問五 ——線B「それ」の指している部分はどこからどこまでか。本文からぬき出し、初めと終わりの五字で答えなさい。

(句読点、カギかっこも一字とする)

問六 ——線C「案外、頭のめぐりは早いぞ、と思う」とあるが、なぜそう思ったのか、説明しなさい。

問七 — 線D「さつき更衣室でこの話きいたとき、しめた、と思つてね」とあるが、なぜそのように思ったのか。更衣室での話を明らかにして三十五字以内で答えなさい。

問題は以上です。